

いじめはなくなる。 そう信じて言い続けたい

市人権推進課（教育庁舎1階）

TEL 32・2122 / FAX 33・3525

昨年11月25日(日)に、「ヒューマンフェスタとくしま2012」が、徳島県教育会館で開催され、元WBC世界フライ級チャンピオン内藤大助さんのトークショーがありました。それとほぼ同じ内容が「ほうてらす」23号（本年1月号）に掲載されていたので、概要を紹介いたします。自分がいじめに遭った体験を赤裸々に話されたのが印象的でした。みなさん、ともに考えてみませんか。

一・ボクシングで変わった自分 そして乗り越えた挫折感

昔は人が大嫌いで人間不信信だったけど、そんな僕がボクシングで変われ、最後は「人のおかげで」と思えるようになった。

二・いじめが原因で人間不信に 中学3年で胃潰瘍を経験

人が大嫌いで人間不信になっていったのは「いじめ」です。中学2年から3年の2年間は本当に地獄でした。
(中略)

いじめが始まったきっかけはクラス替えで、あるグループができた。その中の一人が僕の方を見て笑ってる。どうやら「ボンビー、ボンビー」と言ってるらしい。ボンビー、ボンビーって？「オマエだよ、オマエのこと」って感じで、そうか、ボンビーはビンボー（貧乏）ということか。何で僕が貧乏なんだよ。そうしたら「オマエ、自分の家を見たことあるのか」。そう言われると急に恥ずかしくなり、気になりだしてね。確かにボロ

いと。でもしょうがない。母子家庭だしね。体も小さかったから、ケンカしてもかなわないし、何もかもが急に萎縮しだすようになり、孤立し始めたんです。中学3年の時だったかな、毎日下痢で、1日に5回も6回もトイレに行く状態が続いた。親に連れられて医者に行つて胃カメラをのんだら、胃潰瘍と診断されました。僕も他人を傷つけたことがあるかもしれないけど、やっぱり本当に辛かったんだね。胃潰瘍になつたくらいだから

三・モチベーションを高め、 ポジティブに生きる

いじめの辛さよりはまだまだだと、辛いボクシングの練習にも耐えられた。でも、いじめられたからボクシングが強くなったわけではなく、いじめられて良かった。それは絶対には言えない。それは違う。ただ、どうせだったら辛かったことをプラスに変えなきゃ。そう思つてやってきたんです。と言っても、ボクシングを始めた頃は、仲間の一人に「内藤君はいつも否定的に考える。

マイナス思考だね。ボクはまったく逆」と言われていました。そんな自分でしたが彼に影響を受けてポジティブに考えるようになったんです。自分も日本ランカーになり、テレビや雑誌に出たい。そうやってモチベーションを持ち続け、それを高めることで、一つ一つ壁をクリアしてきました。もちろん、支えてくれた皆に応えたいというモチベーションも大きかったです。

四・いじめは一生続く わけではない。 抱え込まないで 誰かに相談を

自分自身の体験から、今同じ立場にいる小・中学生に、まず、言いたいのは、いじめは一生続くわけじゃないということ。
「どうせオレなんか」と思つて諦め、悩みを抱え込まないこと。身近な人に話すことで、少しは気が紛れるんですよ。もし先生に言えなかつたら親に、親に言えなかつたら友達に、友達にも言えなかつたら、今の時代、

電話相談もあるし、インターネットもある。何か自分に合った方法があるはず。とにかく人に話すこと、抱え込まないでね。偶然に見たテレビのいじめ問題の番組で、ある人が「いじめは昔からある。なくならない」と発言したのに対し、別の人が「あんたが言っていることはおかしい。いじめがあることを前提にしている」と怒つたんです。僕もそう思う。「いじめはなくなるんだ」と言つて欲しい。それから、「いじめられた方にも問題がある」という考え方も違う。今ならはつきり言えるけど、「いじめられる方にも原因がある」というのは間違っている。悪いのはいじめられている方じゃない。とにかく、一人で抱え込まないで！

参考・引用文献

2013年1月15日
「ほうてらす」23号

